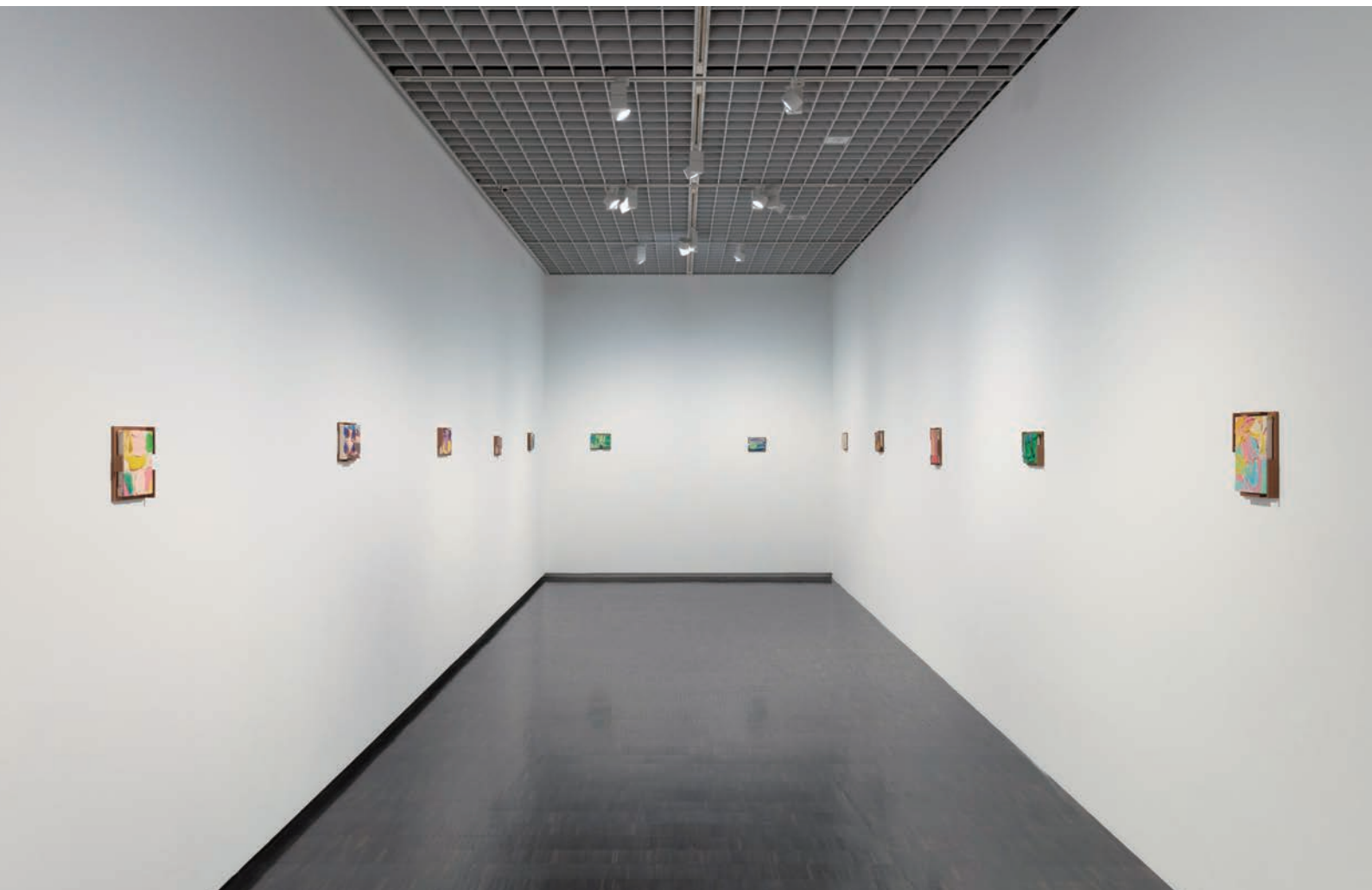


MOMATコレクション 特集展示 岡崎乾二郎 | TOPICA PICTUS たけぼし

会期：2020年11月3日－12月20日[前期]、12月22日－2021年2月23日[後期] | 会場：美術館1室、4室、12室、EVホール[2-4階]

## 岡崎乾二郎特集



会場風景 | 撮影：中川周

2020年11月から21年2月にかけて、「MOMATコレクション」にて特集「『今』とかけて何と解く?」を開催しました。コロナ禍の渦中にある「今」をふまえ、「なぞかけ」風にさまざまな角度から100年の美術を考えてみるという趣旨です。この特集のなかの、さらに特集展示として企画されたのが「岡崎乾二郎 | TOPICA PICTUS たけぼし」です。美術館が作品を収蔵し、未来へ伝える営みには、距離が大切とされます。これは距離をとることで総体の俯瞰、客観性の確保、歴史化が可能になるという考えによります。ただ、そこには不可避免的に遅れが生じま

す。現況にリアクションした2020年の美術のさまざま、それをコレクション(展)として十分に示すことが可能になるのは、時間的に少し先のことになります。けれど、世界に対して鋭敏な感性を持つアーティストが、今現在もたゆまず制作を続けているというアクチュアリティ(と、そのアクチュアリティが歴史と確かに接続していること)を見逃してはならないのも事実です。そのように考え、岡崎が2020年3月からアトリエにこもり制作した最新作をお借りし、コレクション展のなかで紹介することにしました。

[美術課主任研究員 三輪健仁]